

関西大学取組紹介

小林 至道（関西大学 教育推進部 特任助教）

本日は、私から関西大学の取り組みの紹介をさせていただきます。

お手元の資料と前のスライドをご覧ください。

関西大学の取り組みについて、ご覧の4つの項目について順にお話していきたいと思います。

関西大学の取組

- ライティングラボの運営・管理
- ライティング講座の実施
- 支援ツール・教材の開発
- イベントの企画・実施

まず、1点目のライティングラボの管理運営に関してですが、1つ目の基本方針としては、文章作成のプロセス

をTA（ティーチング・アシスタント）が個別アドバイスによって支援するという

1. ライティングラボの運営・管理

(1) 基本方針
 ・文章作成のプロセスを、TAが個別アドバイスによって支援する
 ・添削（赤入れ）は行わず、学生の「気づき」を促す

(2) 支援体制（2014年11月現在）
 ・スタッフ：特任教員3名
 事務員1名
 TA（大学院生）26名
 ・場所：千里山、高槻キャンパスの2箇所
 ※2015年度より総合図書館内に新設予定

方針で行っております。2つ目の基本方針として、文章にいわゆる朱入れ（添削）は行わずに、TAが質問を重ねながら学生自身の気づきを促すという方針で行っております。

次に、支援体制ですが、現在、特任教員が3名、事務員が1名、TAである大学院生が26名の体制で行っております。場所は、千里山キャンパスと、2014年10月14日に新しく高槻キャンパスにもラボをオープンし、現在は2カ所体制で行っております。そして、2015年4月からは千里山キャンパスの正門を入ってすぐのところにある総合図書館ラーニングコモンズ内に、ラボがまたさらに新設される予定です。

それから、TAの募集、研修、ミーティングに関してですが、TAは、学内公募で応募したTA、それから指導教員によって推薦されたTAを募集しまし

て、書類審査、面接を経て採用、そして研修という形をとっております。新人研修は約

1. ライティングラボの運営・管理

(3) TAの募集・研修・ミーティング
 ・TA募集→書類審査・面接→採用→研修
 ・研修は約1ヶ月間（業務説明、TAとしての心得、ロールプレイ）
 ・TAと特任教員でミーティングを実施

(4) 授業（カリキュラム）との連携
 ・授業担当教員からのラボ利用指示
 ・ラボ利用証明書の発行による授業担当教員へのフィードバック
 ・特任教員による利用ガイダンス、出張講座の実施

1カ月間行っております。業務内容の説明、コミュニケーションの基本である傾聴の仕方を含めたTAとしての心得の修得、それから実際の相談場面を想定したロールプレイの繰り返しなどを、約1カ月間かけて行っております。新人研修後、現場にスタッフとして入ってからも、他のTAや特任教員で集まり適宜ミーティングを行うという形で、ラボのミーティングを行っております。

また、授業カリキュラムとラボの連携を進めております。具体的には、まず、授業を担当している教員にラボ利用案内のお願いを書面で送ります。その後、授業内でラボのガイダンスや出張講義を利用させていただき、ラボの利用指示を教員から学生に出していただくという形で行っております。ラボ利用指示でラボを利用いただいた教員には、「ラボ利用証明書」を発行しております。これは、ラボに〇〇という相談内容で訪れた学生に対して、ラボとしては△△の点を支援しましたということを証明するものです。この証明書を発行することによって、授業担当教員へフィードバックするというを試みしております。それから、ラボの特任教員は3名いるのですが、授業にお邪魔して「ライティングラボはこんなところですよ」という利用ガイダンスを行ったり、レポートや論文の書き方の基本を伝える出張講座を行ったりもしています。

このように、いろいろな試みをしている中で、ラボでの個別アドバイスの利用実績をまとめたのが次のスライドになります。学期ごと、通

1. ライティングラボの運営・管理

(5) 利用実績：学期ごと、通年の利用者数の比較

年度	春学期	秋学期	通年
2012年度	259	150	409
2013年度	497	220	717
2014年度	566	290	857

開室期間：半期約70日
 利用者数：延べ人数

年の利用者数をまとめたものです。ご覧のとおり、1年目、2年目、3年目と、年を追うごとに数は増加しています。開室期間は、半期約70日間で、年間約140日ぐらいです。数は延べ人数で計算しております。

続きまして、2点目なのですけれども、先ほども少し触れましたが、ライティング講座というものを実施しております。大きく3種類で順に説明します。

まず、「レポートの書き方ワンポイント講座」というものを、お昼休みの30

2. ライティング講座の実施

(1)「レポートの書き方」ワンポイント講座

- ・昼休みの30分×9回(千里山キャンパス)
- ・他キャンパスにも展開(30分版、90分版)

(2) 特定の学部生を対象とした講座

- ・スポーツ推薦入学者(SF生)対象:文章作成力向上講習会
- ・商学部対象:入学前教育の一環として

(3) 高大連携の一環として高校生を対象とした講座

- ・ネックレスセミナー、ワンセミナー



分間、9回のシリーズものを、千里山キャンパスで行っております。関西大学の場合は高槻、高槻ミューズ、堺と4つキャンパスがあるのですけれども、現在は、他キャンパスにも展開し、実施しております。その際は、千里山キャンパスでのように9回を通してすることは現状では難しいので、30分×3回にしたり、90分で1回にしたりと、短縮版で開催するという形で行っております。

次に、特定の学部生を対象とした講座というものも行っております。例えば、関西大学にスポーツ推薦で入学した学生を対象とした「文書作成能力向上講習会」や、入学前教育の一環として商学部生を対象にメール文の書き方を教えるという講座をしております。

さらに、社会との連携、取り組みの学外への発信ということも大事ですので、高大連携の一環として、高校生を対象にした講座というものも開いております。ワンセミナー、ネックレス・セミナーという名前の講座で、高校生を対象にライティングにかかわる講座を行っております。

さて、関西大学の取り組みの3点目

3. 支援ツール・教材の開発

(1) eポートフォリオシステムの開発

- ・体制:教員4名、ITセンター職員2名、開発企業4名
- ・検討会:週1、2回ペースで開発・システムの検証
- ・現在:TECFolioのプロトタイプ作成→検証・評価

(2) 評価指標の作成

- ・体制:教員4名
- ・検討会:週1回
- ・現在:ライティングに関するクラスルーブリックの作成→検証



ですが、支援ツール、教材の開発を行っております。

1つ目に、eポートフォリオシステムを開発しております。こちらは、先ほど中澤先生からお話があったとおり、津田塾大学と共同開発を行っているのですが、ご覧のスライドには関西大学側の参加者の体制を書いたものにしてあります。こういった体制の中で、現在はTECFolioのプロトタイプを作成しており、これからその検証、評価、そして実装という段階に順次なっていくところです。

それから2点目として評価指標、いわゆるルーブリックに関しても、ご覧の体制で関西大学では検討を重ねています。現在は、ライティングに関するクラスルーブリックの作成およびその検証を経て、実際に授業で使うという段階に至っているところです。

次に3点目として、『レポートの書き方ガイド』という40ページ程度の小冊子を発行し

3. 支援ツール・教材の開発

(3)「レポートの書き方ガイド」の発行

- ・40ページ程度の小冊子
- ・これまでに基礎篇(2012年度)、入門篇(2013年度)を発行
- ・今年度も発行予定



ております。これまでに、基礎篇と入門篇という小冊子をつくってまいりました。基礎篇に関しては、レポートの書き方の基本的なことがまとめられたものになっております。入門篇に関しては、レポートの書き方以前に、レポートを書くために活かしたい学内施設、例えば、図書館であるとかITセンターであるとかの使い方をガイドしたものになっています。そして、今年度もこれに類するものを発行する予定でおります。

関西大学の取り組みの4点目ですが、各種イベントの企画・実施を行って

4. イベントの企画・実施

(1)ステークホルダーによる講演会

①2012年度

- ・株式会社朝日新聞社
- ・講演名:書きたいことは、読みたいことですか?

②2013年度

- ・株式会社バソナグループ
- ・講演名:実践!社会に出て役立つ「伝える力」!



おります。まず、この取り組みはステークホルダーにご協力をいただいているのですけれども、そのステークホルダーの方々による講演会を企画し、実施していただいております。これまで、2012年度に株式会社朝日新聞社、それから2013年度に株式会社パソナグループにそれぞれ講演をしていただいております。

それから、「考動力」作文コンテストというコンテストを行っております。この「考動力」の「考」の字は、あえて「考える」という字なのですね。お手元のスライドの右下のロゴにもあるとおり、「THINK × ACT」、すなわち「考え、行動する」というのは関西大学の標語にもなっておりますので、この自ら考えて動くという点にフォーカスした作文コンテストを行っております。こちら

もステークホルダーである伊丹市教育委員会の後援のもと行っております。昨年度から行っておりまして、昨年度は、高校生の部で600作品弱、大学生の部は100作品弱の応募がありました。2014年度は今まさに開催しているところでして、高校生の部が1,070作品、大学生の部は、ただ今広報中です。

続いてですけれども、「ラーニングカフェ」という名のもと、学部生を対象としたスタディスキル系の講座を開催しております。こちらは、スタディスキル系ですので、本の読み方であったり、プレゼンの仕方であったり、ノートテイキ

ングであったり、メールの書き方であったりということテーマにして開催しております。そのうちの2回から3回において、ラボのTAによるライティングに関する講座を開くという機会を設けております。

最後に、ワークショップをこれまでに3回ほど開催しております。明日ですけれども、「効果的なライティング/キャリア支援の方法を考える」というワークショップを行います。ご参加をお待ちしておりますので、ぜひご参加いただければと思っております。

以上、関西大学の取り組みを紹介してまいりました。本報告の最後に、今後の課題を3点にまとめました。

1つ目は、ライティングラボの利用に関する量的、質的な分析がこれから必要であろうと考

えております。スライドにもリサーチクエスチョンを2つあげましたけれども、どういった学生が、どのようにラボを利用しているのかという調査であったり、ラボの利活用によって学生自身のライティングの質というのがどのように変化するのかという質保証にもかかわる点の分析であったりを、今後は詳細にする必要があるだろうと考えております。

2つ目の課題として、授業カリキュラムとの連携、学内関連部署・機関との連携をより深めていきたいと考えております。その際、これまでも申し上げてきたとおり、この取り組みで開発したeポートフォリオシステムやルーブリックといった支援ツールの利活用を通して、連携を図っていくということが肝要であろうと考えております。

最後に3つ目の課題は、取り組み成果の社会への発信という点です。ステークホルダーとの連携というものをごこれまで以上に密にしていくということ、それから、今まで述べてきたような取り組み全体の成

4. イベントの企画・実施

(2)「考動力作文コンテスト」

- ・ステークホルダーである伊丹市教育委員会の後援
- ・応募総数
 - ①2013年度
 - 高校生の部：598作品
 - 大学生の部：92作品
 - ②2014年度
 - 高校生の部：1070作品
 - 大学生の部：広報中



今後の課題

- (1)ライティングラボの利用に関する量的・質的な分析
 - ・どういった学生が、どのようにラボを利用しているのか
 - ・ラボの利用によって学生のライティングの質がどう変化するのか
- (2)授業(カリキュラム)、学内関連部署・機関との連携
 - ・支援ツール(eポートフォリオ・ルーブリック)の利活用を通して
- (3)社会への発信
 - ・ステークホルダーとの連携
 - ・取り組み成果の発信



4. イベントの企画・実施

(3) Learning Café(学部生を対象としたスタディスキル系講座)

- ・本の読み方、プレゼンの仕方、ノートの取り方、メールの書き方
- ・そのうちの2回～3回で、TAによるライティングに関する講座

(4) ワークショップ

2013年度	・思考し表現する学生を育てるV-レポート・ライティングに関する授業設計を考えるー
	・ライティング/キャリア支援のためのルーブリックの活用ー海外の先進事例を踏まえてー
2014年度	・ライティング/キャリア支援におけるeポートフォリオの可能性
	・効果的なライティング/キャリア支援の方法を考える(明日)

シンポジウム議事録

シンポジウム「ライティング支援の未来像－社会との効果的な連携と支援ツールの活用－」

平成 26 年 11 月 8 日（土）14：00～17：30

果を社会に向けて発信していく必要があるだろうと
考えております。

駆け足で紹介してまいりましたが、関西大学の取
り組みの報告は以上になります。